

# キラリ★ひと言

新市・議会に対する意見など  
それぞれの思いを語っていただきました



## 主張から提案へ

三重町松尾

藤原 憲治

今の合併後の市の有様をみなさんは、どうお考えでしょうか。

していかなければならない訳です。

今までごおりの主張をし

これから私たちは、この新しい市を自治していかねければなりません。事は山積みです。今まで先送り責任転嫁してきた問題を解決

ていきますか。お金が無いからと諦めますか。それとも、救世主が舞い下りてくるのを待ちますか。事態は、私たちの将来へと深刻に影

を落としているのではありませんか。

ここで、必要になってくるのがみなさんの「知恵」ではないでしょうか。様々な制約の中から知恵を絞り、それを水面に落とし、波紋を広げていくのです。

少子高齢化が進み、医療費の負担が増えるのなら、お年寄りに元気でいてもらいましょう。



## 二つの価値観

清川町砂田

堀 章治

私は、清川町の住民ですが、自分の住所を未だに「清川村」と言ってしまうことが多々あります。

根強く残っている証左だと思っています。

これは、明らかに「地元意識」という市町村合併に際しては、あまりありがた

どの町にお住まいの方でも大なり小なり、この意識はお持ちだと思いますが、地元に対する愛着と市としての一体感という、ともし

くない要素が、自分の中には背反する価値観の狭間

選挙区制の市議会議員選挙は、初回限りだと聞きましたが、次回の選挙後こそ新市政の真価が問われると私は考えます。恐らく地元選出議員が減少するであろうと予想される中で、人口

比の少ない地域の声がどれ



ざといても畑で頑張っています。(三重町芦刈)

九大農学部での調査で、毎朝早く畑に出かけるじいちゃん、ばあちゃんが元気というのです。物を作り、出せる分を売る。それが生きる力となっているのでは。

ただ市政に届くのか、小さな声はかき消されるのか。現職議員さんの大きな役割は、その下地作りだと思います。

そう遠くない未来のため、是非頑張ってください。